

街に居場所ができる“のきしたしごと事業”

■取組の概要、経緯

- ・人々が集まる場である地域資源に仕事を提供してもらい、社会的に孤立した様々な属性の人が、街の中で仕事体験をすることを通して、日常生活や孤立・分断された関係性に何らかの変化をもたらすことを目指した。
- ・当事者には有償ボランティアとして 1 時間 800 円の謝金を本事業の経費から支払い、対価を得る仕事の疑似体験を通じて一度は失われてしまった社会との繋がり、仕事をすることで得られる感覚を実体験する機会を提供した。事業所には、労働機会、場の提供と共に、関わりを積極的に持ってもらえる環境の設定を依頼し、様々な事情で孤立を余儀なくされていた人達と街との出会いをきっかけに、街が社会資源化していくことを目的として事業を行った。

■基本情報

○官民連携事例

○取組の実施機関：特定非営利活動法人場作りネット

- ・対象地域：長野県東信地域
- ・連携の実施機関：
 - 若者サポートステーション・シナノ（NPO 法人侍学園）と連携し、自宅で家族と生活しているが就労に結びつかない 30 代の男女 4 名を本事業につなげた。
 - 生活困窮状態だった参加者を支援するため、社会福祉協議会の食糧支援につなげた。
 - 地域資源と連携し、仕事を創出した。

○取組の実施期間：2013 年 4 月～

○URL：<https://buzzcre.net/>

■取組のより詳細な実施内容

「のきした」は、長野県上田市で生まれた市民のつながり合いだ。社会の雨風となる困難をしのぐための「のき」となる場を作ろうと、その時々縁で集まった人が主体的に活動を作ってきたもので、その中心には「やどかりハウス」がある。やどかりハウスは、市内にある劇場やゲストハウスを運営する「犀の角（さいのつの）」と相談支援を行っている NPO 法人場づくりネットが 2020 年 12 月から始めた取り組みで、犀の角のゲストハウスには 1 泊 500 円で泊まることができる。（追記：2026 年現在は試験的に 1 泊 1000 円）宿泊はやどかりハウス公式ラインで簡単に申し込みができて、年齢・性別を問わず誰でも

困ったときに、あるいは困りごとがなくても利用できる雨風をしのげる場となっている。

やどかりハウスは、5年間で1000名、3500泊、たくさんの人たちが駆け込んでくる場になり、それは「助ける場」から「助かり合う私たちへ」を変化し日々進化している。

「のきしたしごと」は、それぞれに困りごとを抱えていた人たちが、どうにか助かり合おうと知恵を絞り、この街で仲良く暮らしていくために色んな場や関係性を作ろうとしてうまれたものだ。街の中にある劇場や映画館、古本屋などの文化的な場所で仕事を作り、そこで働くことを通して街と出会い直す取り組みを2023年度から始め、これまでに40人ほどの人たち（主に若者、女性、時々中高生や中高年）が参加している。



■課題や苦労した点

仕事内容の伝達や、注意点や工夫すること等について、仕事開始時にコーディネーターやジョブサポーターが介入しすぎず、現場のスタッフと直接やりとりしたり、他の参加者から教えてもらうことによって、仕事を真ん中にしたコミュニティ意識が参加者の中に生まれるように見守った。

■取り組みの効果

事業終了時に当事業の参加者に対して行ったアンケートにおいて、以下の結果が得られた。

- ・「実際に事業に参加してみて、参加者それぞれにとってどのようなものだったか」という問に対して、73.7%が「お金がもらえた」と回答し、36.8%が「視野が広がった」「自分のこと（得意・不得意）が知れた」と回答した。
- ・「本事業が孤独・孤立対策に役立つか」という問いに対して、36.8%が「大いに役立つと思う」、47.4%が「役立つと思う」と回答した。
- ・全体の感想としては、「自信につながった」、「生きるモチベーションになった」との声もあり、参加者それぞれが次の展開に向かえるような体験になったことがわかった。

■取材をして

福祉の限界を超える当事者主体

副理事長の元島さんは「シンプルに困りごとのある本人の希望を実現する」というが、それは一人ひとりに向き合うことであり、時間もかかり試行錯誤の毎日だ。福祉施設の枠組みでは到底採算があわないだろうことに挑戦している。ある時、食糧支援をしていた気づいたことがあった。手に取られるのは包装された品物ばかり、土のついた有機野菜は余ってしまった。これは消費文化に手を貸しただけなのではないか、これは本当にやりたかったことなのか、そう考えたときに最終日には一人ひとりに声をかけていっしょに鍋を囲んで食べることにした。その結果「ホームレス」が、「苦労人のおっちゃん」に変わり、「支援する側・される側」「サービス提供者・受益者」を超えた「出会い直し」ができたという実感をもてるようになった。この一瞬の喜びの時間を共有することが生きるにつながるという手ごたえを得る。

「のきしたしごと」も、普通の就労支援とは大きく異なる。のきしたしごとを受け入れているバリューブックスの池上さんに聞いてみた。



バリューブックスはオンラインを中心に古本の買取・販売をしている上田市を拠点とする会社で、ブックカフェ「本と茶 NABO」とアウトレット本屋の「バリューブックスラボ」というふたつの実店舗も運営している会社である。のきしたしごとでは、求人に合わせて

人が来るのではなく、来る人に合わせて仕事を生み出していくという作業をする。最初はどうかと思ったけれど、最初は古本の値付けシール貼りをやっていたバリューブックススタッフには、もう別の仕事が生まれているなど、来た人によって仕事が次々に生まれていくのはおもしろいそうだ。とはいえ、文化芸術に造詣が深く博識ではあるが、お客さんと話し込みすぎたり喧嘩になってしまう人もいたとのことだ。その方にはその後、本の書評や推薦ブックスを書き出す仕事を提案してそのキャラクターを生かすことができたそうだ。

のきしたしごとの担当者でやどかりハウスの秋山紅葉の肩書は、ソロ・ソーシャルワーカー。街の中に出番（仕事）を作り、関係性を捉え直す実験として、のきしたしごと事業は始まったとのことだ。その当事者主体の徹底ぶりは、劇場や映画館、古本屋などの文化的な場所を巻き込み、街をどんどん変えていっていると感じた。

アート表現者たちの可能性

2016年、演劇等で使用できる劇場とゲストハウスを備えた民営文化施設「犀の角」を創設した一般社団法人シアター&アーツうえだの荒井洋文氏は、集まらないという状況の中で劇場の存在意義を突き付けられていた。おなじくコロナ禍で社会状況が悪くなり困窮者が増えてきたなかで、何ができるか考えていた場づくりネットの元島氏らと雑談している中で「のきした」は生まれた。困りごとを抱えたひとが犀の角でアーティストと出会い、刺激し合い「出会い直し」が始まる。

この民営文化施設「犀の角」で生み出されたものの一つに、「家出チケット」がある。譲渡可能で、家出したい人が近くにいたら渡すことができる。3枚セットで111,00（いい家出）円。現在は12,000円だそうだが、1枚でゲストハウスに1泊（モーニング付）できる。犀の角を支える寄付の一つでもあり、一番の売れ筋だという。ネーミングにはいろいろな意見もある。家出は生き延びる手段か、安心のお守りか、みんなで対話しながら活用は続いている。



また、近所の NPO 法人が運営する映画館では、2020年から「学校に行きづらい日は映画館へ」のキャッチフレーズの元、こどもたちに映画館をもうひとつの居場所として提供を始めた。子どもたちだけでなく、ちょっと疲れてしまった大人や若者た

ちにも場を開いている。

「出会い直し」をする場として、この緩やかでオープンで型にはまらない、演劇、映画、本、音楽といったアートの世界の表現者たちの存在は、緩やかに自分の存在場所を見つけて

良いと言ってもらえそうな、その可能性を提供するインキュベーターとなっているように感じた。

共に助かり合う

孤独を抱えて逃げてくる人たちとの出会いを重ねる中で、スタッフも藻掻き苦しむことが出てきた。そんな時に休止をして話し合いを重ねて、自分たちの活動は「助ける場」ではないことを確認して、「助かり合う私たちへ」と方針を変えて第2幕が始まった。一人の悩みを題材にお茶会を開いてそれぞれが語り合う場をつくる。苦しみや痛みはあっても、いたわりややさしさが交換されていく場であり、からだが緩んでいく。そんな対話の場を大切に、時々その後の暮らしぶりを報告してくれるやどかりハウスの利用者や関係者の手紙やメールにほっとする。

また一人のつぶやきからはじまったものに、ジジバババンクがある。ファミリー・サポート・センター事業のルーツのようなゆるやかに子どもを見守る内容だ。できる人ができることをする、一人で子どもを育てるではない、長屋のような関係性だ。こんな風に、一人のつぶやきから、どんどん多様な「のきした」が生まれてきそうなのがこの活動の特徴だ。

当初は、行政や関係機関の方々ともぶつかり合うことがあったが、今では、行政とも頻繁に連絡を取り合い、それぞれの役割を確認しつつ業務にあたっている。行政からの紹介もある。行政だけではできないからこそ連携が必要だが、それも一人ひとりの方々との出会いと出会い直しの取組の積み重ねだ。ひとは、このままではいけない、どこかで変わらなくてはならないと思う瞬間がある。その時、この場作りネットの「のきしたしごと」は、自分なりの「生きる」を見つけられる場として、大いに役立つだろうと確信した。

(取材者 奥山千鶴子)